

# 第90回 中小企業景況調査報告書

4月～6月の実績と  
7月～9月の見通し

## ■ 今期調査の景況キーワード

前年同期比売上D I値は▲50.6で、前期調査時より0.5ポイント悪化した。業種別では、サービス業、建設業、製造業で好転したもの、小売業、卸売業で悪化した。来期見通し売上D I値は▲37.2で、今期より13.4ポイントの好転を予測している。地域の实体经济は、厳しさが残るものの、急激な落ち込みから穏やかに持ち直しの動きが見られる。景気のキーワードとしては、「需要の停滞」「価格の低下」「ニーズの変化」などが挙げられる。

■ 調査時点 平成22年6月30日

## ■ 対象業種

製造業 25社(18) 建設業 23社(17)  
卸売業 18社(18) 小売業 30社(20)  
サービス業 21社(16) 合計 115社(89)

※( )内は回答企業数

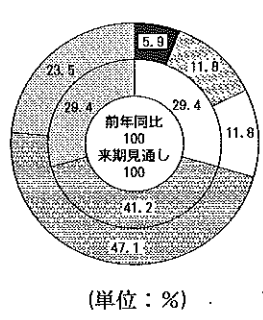
■ 回答率 77.4%

## 概況

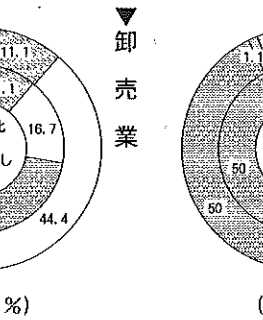
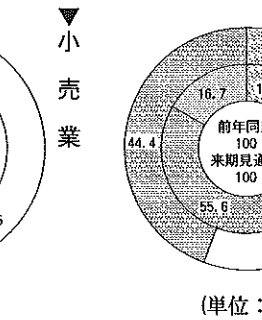
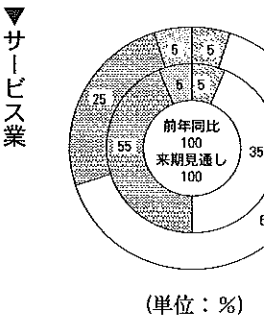
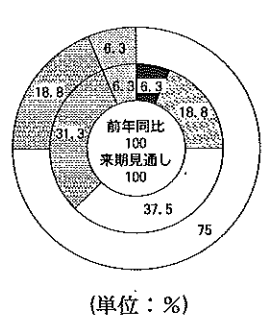
◆ 売上状況(前年同期比)では、売上D I値▲50.6を示し前期調査時より0.5ポイント悪化した。  
業種別の売上D Iはサービス業18.7ポイント、建設業5.5ポイント、卸売業で0.1ポイント好転したが、卸売業17.4ポイント、小売業で12.9ポイント悪化した。  
来期見通しD I値は、▲37.2で今期調査時より13.4ポイントの好転を予測している。  
◆ 採算水準(前年同期比)では、D I値は▲50.5で、前期調査時(▲51.0)とほぼ同数値を示した。  
業種別ではサービス業で18.8ポイント、卸売業で0.6ポイント好転したものの、建設業0.3ポイント、小売業2.6ポイント、製造業1.0ポイント悪化した。  
来期見通しD I値は▲41.5で今期調査時より9.0ポイントの好転を予測している。  
◆ 仕入単価(前年同期比)では、D I値は▲18.0で、前期調査時より4.2ポイントと悪化した。  
業種別ではサービス業で12.6ポイント好転したものの、小売業で5.3ポイント、建設業5.6ポイント、製造業で8.5ポイント、卸売業では27.0ポイントと悪化した。  
来期見通しD I値は▲17.9で今期調査時とほぼ同数値を示している。  
◆ 資金繰り(前年同期比)では、D I値▲44.9で、前期調査時より1.3ポイント悪化した。  
業種別では、サービス業で24.9ポイント、建設業で8.9ポイント好転したが、卸売業4.9ポイント、小売業13.4ポイント、製造業で18.0ポイント悪化した。  
来期見通しD I値は、▲42.8で今期調査時より1.1ポイントの好転を予測している。  
◆ 雇用人員(前年同期比)では、D I値13.5で前期調査時より1.7ポイント過剰を示した。  
業種別では、卸売業で19.4ポイント、製造業で2.6ポイント前期調査時より不足感を示したが、建設業23.3ポイント、サービス業12.4ポイントの過剰を示した。また小

売業では主0となった。来期見通しD I値は12.4で、今期調査時より1.1ポイント不足を予測している。  
◆ 業界の状況(前年同期比)では、D I値▲67.4で、前期調査時より2.8ポイント好転した。業種別では卸売業で13.8ポイント、サービス業6.3ポイント、建設業で4.5ポイント、製造業4.0と好転したが、小売業で17.6ポイント悪化した。来期業況のD I値は▲55.0で、今期調査時より12.4ポイントの好転を予測している。  
◆ 設備投資では、今期実施した企業は13.5%で、来期の設備投資を計画している企業は7.9%であった。  
◆ 経営上の問題点としては、製造業では「需要の停滞」「製品(加工)単価の低下」「取引条件の悪化」、建設業では、「官公需要の停滞」「民間需要の停滞」「請負単価の低下・上昇難」、卸売業では、「需要の停滞」「販売単価の低下」「代金回収の悪化」「人件費以外の経費の増加」「大企業の進出による競争の激化」、小売業では、「消費者ニーズの変化」「大・中型店の進出による競争の激化」「販売単価の低下」、サービス業では、「需要の停滞」「利用料金の低下・上昇難」「利用者ニーズの変化」となっている。

◆ 業種別売上(内円は前年同期比、外円は来期見通し)



◆ 業種別売上(内円は前年同期比、外円は来期見通し)



かなり増加  
やや増加  
変わらない  
やや減少  
かなり減少  
回答なし

(単位: %)

(単位: %)

(単位: %)

(単位: %)

(単位: %)